

## 令和6年度 学校教育自己診断の結果と分析

### 【学習指導等】

・授業力の向上をめざし、授業見学月間の設定や研究授業、学習評価等に関する好事例の共有を行った。診断結果(教員)の「教材の精選や指導方法の工夫をしている」「教育活動に関して、日常的に話し合っている」の肯定率はそれぞれ 93.5%(昨年より+0.9%)、90.3%(同+31.0%)となった。また、診断結果(生徒)の「自分で物事を調べ、発表する機会がある」「生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している」の肯定率はそれぞれ 92.9%(同-1.5%)、94.0%(同+4.8%)となった。授業研究委員会の取組みが 2 年目を迎え、教員相互の授業見学や研究授業を行うこと等により、授業改善に向けた取組みが進んだと考えられる。

・協働的な学びの実践に向けて、「総合的な探究の時間」や各教科において取組みを進めた。診断結果(生徒)の「発表する力が身に付いた」「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率はそれぞれ 84.2%(同+1.3%)、84.4%(同+0.2%)となった。引き続き、「総合的な探究の時間」等において、自己探究を行うとともに、自身の将来や社会課題について探究する取組みを進めていく。

### 【生徒指導等】

・生徒主体の学校行事等の取組みを進めるとともに、部活動活性化に向けた取組みを行った。診断結果の「学校行事」「部活動」に関する肯定率はそれぞれ生徒 87.3%(同+0.7%)、86.2%(同+6.3%)、保護者 93.4%(同+1.4%)、83.5%(同+2.9%)となった。部活動加入率についても、昨年に比べ上昇しており、取組みが進んだと考えられる。

・人権教育については、計画的に行うとともに、事象が発生した際には組織的に対応し、生徒への指導を行った。診断結果(生徒)の「人権教育や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率は 88.9%(同-6.6%)となり、目標を下回った。各取組みについては、昨年度と同様に実施していることから、実施時期等についても検討を行っていく。

### 【学校運営】

・近隣中学校と連携した出前授業や部活動交流、中高連絡会を継続するとともに、次年度からの新コース設置に向け中学校訪問時の説明等について統一したものとなるよう工夫を行った。診断結果(教員)の「近隣中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に活かしている」の肯定率は 87.1%(同+31.5%)となった。

・昨年度から「さくら連絡網」を活用し、保護者向け連絡を週 2 回以上行うとともに、学校ホームページを定期的に更新した。診断結果(保護者)の「教育活動の情報について、さくら連絡網やホームページ等で提供に努めている」の肯定率は 95.9%(同+12.3%)となり、取組みが進んでいると考えられる。